

2-6 在来種での葉の大きさと実の大きさの関係は

- ①葉が大きい在来種は、実も大きい
- ②葉が大きい在来種は、実が小さい
- ③関係はあまりなくケースバイケースである

葉が大きいと光合成が活発になり莢実も大きくなると思いがちですが、実際に在来種を見てみると、葉が大きいものの多くは莢実が小さいのが実情です。正解は②になります。へーと思われた方も多いでしょうね。

1-10で落花生の分類を簡単にとりあげましたが、その表2をご覧くださいと、亜種*fastigiata* (バレンシア他3変種)は早生で小粒(小莢)となっています。そしてこのグループに属する在来種が大きな葉を持っています。一方、亜種*hypogaea* (バージニア他1変種)に属する在来種では晩生で大～中の粒(大中莢)を着けます。葉は小型です。これらのことを質問として出させていただいた訳です。説明もしない表にあった話などを持ち出して、すみません。これからの話につなげるためですので、ご容赦を！。

ところで、皆さんはソース(source)とシンク(sink)という言葉をお聞きになったことがありますか。環境問題やIT等でも使われるので、よく聞く、なじみの用語だという方も多いと思いますが、植物学や作物学の世界でも重要な概念になっています。

ソースは光合成産物の供給源、シンクはそれの受給(吸収)源という使われ方をします。簡単に言えば、光合成産物のソースが送り手、シンクが受け手という訳ですね。

植物(作物)にとっては、ソースとシンクの機能の善し悪し(性能)が直接生存、生長や次代への繁殖にかかわってきます。ソースとシンクの各性能とバランスの向上が重要になります。

植物のソースは葉のみです。シンクは根、莖、果実、子実等他の全ての器官、組織と言って良いかと思います。生長中の若い葉もシンクに含まれ、ある程度成熟するとソースになるとされています。

作物栽培にとって重要なシンクは人間が利用する器官で、ゴボウのような根菜では根、ジャガイモでは莖、トマトのような果菜や果樹では果実、そして落花生では子実(種子)となります。

以下の各項目では、まずソース、次いでシンクについて非力ながらQ&Aをさせていただこうと思います。また、両方の話の中で、落花生育種でもたらされた結果や効用についても触れることができれば幸いですと考えていますので、よろしくお願ひします。

正解 ②